

ご支援の御礼

このたびは、当法人の活動をご理解いただき、また過分なるご支援を賜り心から感謝申し上げます。おかげさまで、多くの方々にご理解とご賛同をいただき、深く感謝いたしております。今後も子どもたちが、夢を持ち人生を歩むことができるよう活動を続けて参ります。

今後とも、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご賛助いただきました皆様には、随時当法人の活動のご報告やノベルティの作成などを進めさせていただきます。



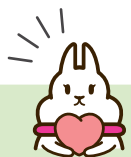
たくさんの支援物資をいただき、ありがとうございました。ばるーんでの生活や退所後の子どもの生活で使わせていただきます。

53件

物品寄付

※令和6年4月1日～
令和7年3月31日時点

ご支援のお願い



24時間365日対応での子どもたちの生活や運営のための経費は、公的費用だけでは足りないため、皆様のご支援で支えられています。ぜひとも支援の輪につながっていただき、私たちの活動を支えてください。温かいご支援のほど、よろしくお願いいたします。

① 会員になる(賛助会員)

継続的にご支援いただくとともに、ばるーんからの報告やイベントのご案内などをさせていただきます。専用の払込用紙をご利用いただけますと、会員登録できます。

個人 年会費 1口 3,000円
団体 年会費 1口 10,000円

② 寄付をする(寄付金・物資)

金額にかかわらず大歓迎です。お寄せいただいたご寄付は子どもたちのために大切に使用させていただきます。遺産を子どもたちのために役立てたいとお考えの方や、ご自身の財産について遺言書を作成することで公的な団体にご寄付をお考えの方は、当団体へのご寄付も候補の一つとして是非ご検討ください。

佐賀銀行 本店営業部(店番500)
口座番号 普通預金口座 3206337
口座名義 特定非営利活動法人 佐賀子ども支援の輪

ゆうちょ銀行 一七九(イチナナキュウ)店
口座番号 当座口座 0152662
口座名義 特定非営利活動法人 佐賀子ども支援の輪

また、物品(※原則として未使用のもの)の寄付もお願いしています。食料品、日用品、消耗品、衣類、家具、家電等、ばるーんでの生活や退所後の子どもの生活で使わせていただきます。

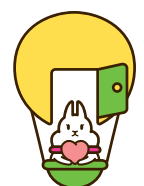
佐賀子どもシェルター
ばるーん



「日頃の感謝を伝える、特別な一冊」

2025.8
特別号

Special Thanks Newsletter



佐賀子どもシェルター
ばるーん

特定非営利活動法人 佐賀子ども支援の輪

事務局(下津浦法律事務所内)

〒842-0002
佐賀県神埼市神埼町田道ヶ里2100-36

TEL 0952-37-5963 [受付時間]
平日9時～17時

佐賀子どもシェルター

検索



本冊子は、赤い羽根福祉基金 特別プログラム「被害者やその家族等への支援活動助成」事業を受けて作成しました。

理事長よりごあいさつ

居場所のない子どもたちと向き合い

歩んだ5年間から見た支援のかたち

支援に支えられた5年

皆さまこんにちは。NPO法人佐賀子ども支援の輪の代表、下津浦です。令和2年4月に法人を設立してから、早いもので5年が経ちました。この間、「子どもシェルターばるーん」の運営にあたり、ご理解とご支援を賜った多くの皆さまに、心より感謝申し上げます。

シェルター開設前から、弁護士会、県警、児童相談所、スチューデントサポートフェイスなど多くの団体にご協力いただき、また設立・運営を支えてくださった市民の皆さまのお力添えがあって、今日まで活動を継続することができました。

振り返れば、開設当初は資金も不安定で、「来月にはスタッフの給料が払えないのでは」と不安を抱える日々もありました。それでも、皆さまの善意と支援によって、一步一步前に進んでいくことができました。

見えてきた現実

設立から5年が経ち、私たちはいくつかの「現実」と向き合ってきました。まず、予想していた通り「居場所を失った子どもたち」は確かに存在していたこと。加えて、私たちの想像を超えるほど深刻な状況に置かれた子どもたちも数多くいたことです。

たとえば、児童養護施設を18歳で退所された後、体調を崩して住み込み

先を離れざるを得なかった方もいます。あるいは、発達障害などの特性によって、家庭や団体生活に馴染めず、心に深い傷を抱えた子どもたち。このような子どもたちの多くは、親から十分な愛情を受けられなかった経験から、大人への不信感や自己否定感に苦しみ、「誰にも必要とされていない」という思いから人との関わりすら恐れるようになっていきます。私たちは、そうした子どもたちに安心・安全な空間を提供し、「大人を信じてもいいかもしれない」と思える体験をしてもらう。そして、保護と自立を両立する支援を目指してきました。

ばるーんは、まさに児童福祉と成人福祉の「狭間」にいる子どもたちのためのセーフティネットとして機能してきたと自負しています。

一方で、私たちが新たに直面したのは、医療的なケアを必要とする子どもたちの存在です。精神的に極度に不安定な状態にあり、入院や治療が必要な子どももいますが、そうした判断や対応が必ずしも迅速に行われるとは限りません。また、治療を経てもなお、特性や家庭環境が変わるわけではなく、退院後の行き場がないという現実もあります。

ばるーんでは、そうした子どもたちに医療へつなぐ道筋をつけたり、医療に繋がるまでの一時的な避難場所として関わってきました。しかし、医療と福祉の「狭間」の課題は、私たちだけの力では到底解決できません。

自分らしく生きる

生きづらさの極みにある子どもたちは、「自分らしく生きる」という希望すら持てない状況にあります。ばるーんに来た子どもたちの中には、自分がどう生きたいのか、何を望んでいるのかさえ考えたことがないという子もいます。そうした現実に向き合うたび、言葉にならない無力感を覚えることもあります。

それでも、私たちはあきらめず、誰もが「普通」に社会に属し、自分の意思で生きていける社会に少しでも近づけるよう、これからも活動が続けていきます。子どもシェルターを通じて見えてきた現実を、皆さまと共有しながら、共に考え、支え合う社会をつくっていかねばと願っています。



▲ ばるーんに入所した子どもが、何気なく描いた絵です。その時の心の状態や、それまでの人生が少しうかがえる描写でした。

ばるーんスタッフより

助けを求めた子どもたちの勇気に応え

その思いを胸に支援の現場へ向かう

私は子どもの頃、両親の離婚や父との死別を経験し、叔母に育ててもらいました。その当時感じていたのは、「大人の都合で振り回さないでほしい」という気持ちでした。私は、大人に不信感を抱いていた子どもの一人だったと思います。

その後、佐賀県警に就職し、県警時代のばるーん施設長に出会いました。県警時代も少年の立ち直り支援に全力を尽くされており、こんなに子どものことを考えてくれる大人がいるのかと初めて知り、その姿に強く心を動かされました。私は心の中で「自分も子どもの頃、こんな大人と出会いたかった」と思いました。

ばるーんには、どうしても家族の

もとで暮らせなかった子どもたちが入所してきます。家族のもとを離れ、知らない場所で知らない人たちと生活する決断をせざるを得なかった子どもたちが、どれほどの苦痛を味わってきたのか、想像に絶えません。子どもが助けを求め、声を上げた勇気を無駄にしたくありません。

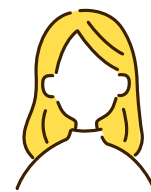
私は今年2月からばるーんで勤務を始めましたが、その期間に入所した子どもの多くは、年齢制限や明確な虐待行為が確認できないなどの理由で児童相談所の一時保護に該当しませんでした。家庭が安心できる場所でなくなり、児童相談所でも保護できず、行き場を失った子どもたちを、当シェルターが受け入れら

れることに、勤務してまだ数ヶ月ですが、当シェルターの存在意義を強く感じています。

疲弊してばるーんにたどり着いた子どもたちが、心身ともに精一杯休める場所となるように。そして、自らの力で新たな人生を切り開けるよう、スタッフとして手助けができればと思います。

子どもを守るための制度や施設は増えて、子どもたちが声を上げやすい環境になってきていると感じています。一方で、まだまだ見過ごされている子どもたちも多くいます。子どものSOSを受け止め、救いの手を差し伸べられる。私もそんな大人の一人でありたいと思っています。

佐賀 子ども
シェルターばるーん
スタッフ
K・R



「歩んできた道、これからの一步」

法人設立から5年。皆さまの温かいご支援とご協力のおかげで、「子どもシェルターばるーん」の活動を歩み続けることができました。心より感謝申し上げます。

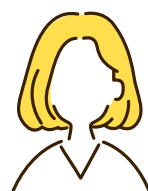
安心できる居場所を守り、助けを求める声に応えるために、これからも一歩ずつ歩みを重ねてまいります。今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

スタッフ一同より

ご支援くださった皆さまへ



ばるーんに入所した



佐賀 子ども
シェルターばるーん
利用者
Sさん
(入所時16歳)

家を出る決意

私がばるーんに入所したのは、高校2年生のときでした。家庭での生活が限界を迎え、児童相談所に一時保護されましたが、そこからは学校に通えなかったため、福祉士さんをお願いして「ばるーん」へ入所することになりました。家庭の環境は危険でしたが、勉強の習慣はあり、進路だけは変えたくないという気持ちがありました。ただ、家を出ると決意をした時は、親の経済的援助が得られず「18歳になったら進学で家を離れよう」と今まで耐えていた時間が無意味になったように思えて、心が折れそうでした。

出会ったあたたかさ

児童相談所に行くことには経験もあり少し慣れていましたが、「シェルター」という場所には正直不安がありました。家族でさえ守ってくれなかったのに、他人が私のことを本気

安心して過ごせる場所がここにあるから

で考えてくれるわけがないと思っていました。でも、迎えに来てくれたばるーんのスタッフの優しさに驚きました。車での移動中、初めて足を踏み入れたシェルター、そしてその夜にみんなで食べた夕食、どれも温かく、どう振る舞えばいいのか分からないほどでした。自分が他人の優しさに慣れていなかったことに気づかされるようでした。警戒していた気持ちが少しずつゆめ、安心へと変わっていったのを今でも覚えています。

変わった価値観

実家では家族で食卓を囲むことはなく、誰かと一緒にご飯を食べることに戸惑いもありましたが、今も思い出すのは、みんなで過ごしたリビングや食卓の風景です。「普通家庭」は縁がないと思っていましたが、ばるーんでの4か月が私の価値観を変えました。ここでの経験が、家族や結婚も悪くないかもしれないと思わせてくれまし

た。「あんな家庭なら、自分もつくってみたい」と思えるようになったのは、私にとってとても大きな一歩でした。

ばるーんという選択肢

退所のときは寂しかったですが、その後もスタッフの方が連絡をくれたことで、少しずつ前を向けるようになりました。2年経った今では、自分の足で生きていけていると感じています。ばるーんは、私が家庭で得られなかった愛情や安心を与えてくれた、実家のような場所です。今でも時々帰りたくなるし、スタッフの方に会いたくなるときもあります。私たちににとって実家のような場所なので、年に1〜2回でも戻れる仕組みがあればいいと思います。

今、過酷な状況にいる子がいたら、ばるーんという選択肢を、ぜひ心の中に持っていてほしいと思います。きっと、あなたの中の何かが少しずつ変わっていくはずです。

利用者からのメッセージ



佐賀 子ども
シェルターばるーん
利用者
Mさん
(入所時16歳)

「大丈夫」と言ってくれた一言で歩む未来

進路を支えた場所

私は「高校2年生までの単位を取りきるように」という先生や児童相談所の担当者の勧めで、ばるーんに入所しました。戸籍上の母との関係が悪化し、やむを得ず家を出て、児童養護施設での生活が始まって1か月ほど経った頃のことでした。今後、血縁者と一緒に暮らすことは考えられず、自立援助ホームに入って働きながら学校に通うことを決めていました。定時制高校に転校するには、今通っている高校で2年生までの単位を修得する必要があり、そのための生活拠点として「ばるーん」が候補に挙がったのです。

安心の毎日

大人が信用できず、ばるーんの入所も「怖い」と思っていたのですが、想像以上にいいところでした。学校へ通うのも、ただ通うだけでなく、送り迎えやお弁当であったり、とても手

厚いサポートがありました。また、年代も特技も様々なスタッフの方々が、それぞれの方法で私に寄り添い、支えてくださいました。特に施設長は「この人何者なのかな」と思ってしまいうくらいに自分の考えがバレバレで、ちゃんと理解した上で、甘やかしてくれたり助言したり、時には叱咤したりしてくださいました。

次の一歩へ向けて

約4ヶ月のばるーんでの生活が当たり前前になっていた私は、次に進むことに不安を感じていました。施設が変わることへの戸惑いもあり、生活環境や学校、バイト先など、すべてが一新される状況に「うまくやっていけるのかな」と考える日々でした。それでも、ばるーんの皆さんは最後まで「あなたなら大丈夫」と言ってくれました。たった一言ですが、4ヶ月間一緒に過ごしてくれた人たちが根拠を持ってくれたその言葉は、何

よりも心強く、今も心に残っています。退所して2か月近くが過ぎた今でも、スタッフの方から連絡をいただくことがあり、アフターケアまで行き届いた温かさを感じています。

感謝と伝えたいこと

私個人の意見から、ばるーんを利用して救われる子どもは、まだまだいると思います。最初は、ばるーんの利用を戸惑うかもしれませんが、子どもを救いたいと思うスタッフの方ばかりで良い施設でした。私のように助けを求めることに戸惑う子どもにも、安心して過ごせる選択肢があることを伝えたいです。

最後に、ばるーんスタッフの方々に感謝申し上げます。4ヶ月の間、大変お世話になりました。今後も、必要な子どもたちにとって、光であり続けてほしいと願っています。末筆ながら、子どもシェルターばるーん様のより一層のご活躍をお祈り申し上げます。



活動報告

◆「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」に参加
毎月11日、イオンモール佐賀大和にて「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」活動をしております。多くの方に、関心を持っていただき、「子どもシェルターばるーん」が心に残ってくれたら大変嬉しく思います。店頭活動では、ボランティアさんにご協力をいただき、たくさん声掛けをしてもらっています。収益は、子どもたちが心地良く過ごすためのものとして、主に寝具や下着、タオル類を購入させていただいております。



ご支援をいただきました。
心から感謝申し上げます。



講演・講話

- 令和7年1月17日 佐賀地区保護司会 / 理事長「犯罪・非行を犯した人たちの更生について」
- 令和7年2月17日 長崎県西海市大島地区民生委員児童委員協議会 / 施設長「子どもシェルターについて」
- 令和7年3月14日 子どもの権利シンポジウム2025 / 理事長「ヤングケアラー～子どもたちの見えないSOS～」

シェルターでの活動

入所した子どもはストレスにより精神が不安定になりやすいです。そこで、スポーツ活動や季節のイベントを通して精神の安定化を図っています。また、職員とレクリエーションを共に過ごすことで子どもとの関係が深まり、信頼へと繋げています。



「協力ボランティアさんのお宅で就労体験をさせていただきました」

「レジンでキーホルダーが、とても可愛くできました」



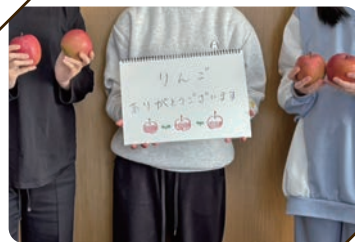
「たくさんのぬいぐるみやモール人形ができました」



「みんなでたこ焼きパーティー」

レクリエーション内容

- 軽スポーツ ●映画鑑賞 ●BBQ
- 岩盤浴 ●マルシェ ●ハイキング
- 宇宙科学館見学、プラネタリウム見学
- アトラクション体験 ●神社参拝
- 料理やお菓子作り ●お花見
- ネイルや工作 など



「りんご、ありがとうございます」



「美味しいお菓子を作りました」

ご支援について

ご支援くださった企業・団体の皆さま（順不同・敬称略）

自然と人の生きるをひとつに
アレスホーム

COSTCO
WHOLESALE



富士貨物自動車株式会社

エヌアイグループ
株式会社

OK COFFEE
Saga Roastery
FRESH COFFEE BEANS

発明家 古賀常次郎

MIRAI CARE GROUP

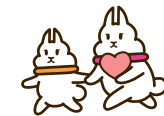
国際ソロプチミスト唐津

Forest Holdings

株式会社サウンドハウス



1R・2R・ZCホストクラブ
（佐賀第一ライオンズクラブ）



皆様からの多大なるご支援、誠にありがとうございました。
ございました。心より感謝申し上げます。

賛助会員数

法人 **11** 社 個人 **70** 名
※令和6年4月1日～令和7年3月31日時点

佐賀駅前法律事務所

国際ソロプチミスト佐賀

えがしら税理士事務所

株式会社コーディネート
スタジオふろしき

トヨタ紡織九州株式会社
TOYOTA BOBOKU KYUSHU CORPORATION

イオン九州株式会社
イオンモール
佐賀大和店

国際ソロプチミスト
佐賀オンライン



今後も変わらぬ
ご支援のほどよろしく
お願いいたします。